

無碍の一道 第59号

発行:2017年12月4日
発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
〒739-0147 副住職 天野英昭
東広島市八本松西6丁目10番1号
☎・FAX 082-428-0160・082-428-1360

除夜会並びに元旦会

日 時 12月31日(日) 23:30~24:30頃

場 所 天龍寺 本堂



御正忌(おたんや)法座

日 時 1月19日(金)

ご講師 松林 行圓師(安芸高田市 善立寺住職)

朝席 9時~11時頃

昼席 13時~15時頃

第74回 歎異抄輪読会のご案内

日 時 12月14日(木) 19:00~20:30頃

場 所 天龍寺本堂

講 師 松田 正典先生(広島大学名誉教授)

費 用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です

お礼を申し上げます。

- ※ 11月21日(火)には、多数おみのりカフェ寺スにご参詣をいただきましたこと書面をお借りしまして感謝申し上げます。
- ※ 先般、当山の裏山に天龍寺仏教壮年会のみなさまにより、植樹をしていただきました。孫の代の頃には、裏山も色鮮やかになっておると思う事であります。いつも当山にご尽力をいただいておりますことこの点も書面をお借りしまして感謝申し上げます。

※ 11月16日(木)に当山で報恩講並びに秋季永代経法座を務めさせていただきました。その際には、多数のご参詣をいただき、さらには11月15日~11月16日にかけて、大変お忙しい中、仏教壮年会のみなさまには事前の草刈りも含め、国道以南の旧宗吉の方々、さらにこの度は、国道以北の方々のお手伝い・準備もしていただきましたこと、書面をお借りしまして厚く感謝申し上げます。



私という存在 I

先般、当山の境内地で蟻の群れを見る事がありました。幼き時は蟻の群れをよく見ていたものですが、中学校を出たころから蟻の群れを観察した記憶がありませんでした。

蟻の群れを凝視してみると一生懸命に働く蟻もあり、蟻同士が喧嘩している所もあり、何もせずただただウロウロとする蟻もあり、さらには少し離れた所におそらく足を痛めている蟻もいました。しかし、他の蟻は足を痛めた蟻を助けようとはしていませんでした。

観察している途中から、私と言う存在を今私が蟻を見ているように高い所から見たならばどの様に見えるのだろうかと考えた事があります。

さらに夕方帰って来まして、足を痛めた蟻はどうなっているのかとあらためて見ますと昼間見ていた場所のすぐそばで死んでおりました。なんとも哀しいものだと感じました。

蟻の姿を見ていますと失礼な言い方になればお許しをいただければと思いますが、なんら今の自分とあまり差異はないと感じる事がありました。

この点は、自分の想像ですが、おそらく蟻と言う存在は、自己の存在等に関して認識はないと思っております。ただひたすらに本能のまま食べる等の事の為に生きているのかとも思ったことでもあります。人間も生きて行くためというよりも蟻の如く本能的に食べて行くことに必死になっているのかもしれない。

人間は自分と言う存在を客観的になかなかとらえる事が出来ないと常々思っておりました。その観点から言えば、蟻の群れを見て、自分と言う存在をあらためて考えさせられた事は、私にとって貴重な時間であったと思った事です。

死ぬという事も含め、蟻に痛みはあるのかもしれませんが、人間が日々不安・悩み・苦しむ等の意識も含め、その様な物は蟻には無いのかもしれませんが。言葉に語弊があってははいけません、見方を変えれば、不安・心配・恐怖等が無い生き方ですから、人間の価値観からしますと幸せなのかも知れないとも考えたことでもあります。

比較の世界に生を受けたが故に物心ついた時から日々勝った・負けた、役に立った・役に立たなかった、得した・損した等と言い毎日過ごし、一方で限りのある世界に生を受けた故に、歳を重ねるごとに身体は衰えて行くことを知りながら、今日は身体の調子がよい・今日は身体の調子が悪い等と、日々一喜一憂さらには自らの終焉の事を考えると恐怖等におびえ、一方であまりの恐ろしさに考えないように努めたりしながら、自分自身の人生を歩んでいるのかとも考える事があります。

(「私という存在」は、先般の花坂のお説教に使用しました資料です。また、「私という存在」は、次号に続きます。ご理解をいただきますようお願い申し上げます。)